

令和元年有田市議会 1 2 月定例会

議事日程（第 3 号）

令和元年 1 2 月 1 8 日 午前 1 0 時開議

日程 1 一般質問

3 番	成 川	満
4 番	小 西	敬 民
9 番	中 谷	桂 三
2 番	上野山	善 久
1 4 番	西 口	正 助

会議に付した事件

日程 1 一般質問

3 番	成 川	満
4 番	小 西	敬 民
9 番	中 谷	桂 三
2 番	上野山	善 久
1 4 番	西 口	正 助

出席議員 15名

1番	中西登志明	2番	上野山善久
3番	成川満	4番	小西敬民
5番	上山寿示	6番	池田敦城
7番	岡田行弘	8番	児嶋清秋
9番	中谷桂三	10番	堀川明
11番	生駒三雄	12番	宇野博治
13番	福永広次	14番	西口正助
15番	浜口元司		

欠席議員 0名

議事説明員

市長	望月良男	副市長	田代利彦
教育長	田中政彦	経営管理部長	嶋田博之
経営管理部参事	喜多俊充	市民福祉部長	宮崎三穂子
経済建設部長	河野孝司	経済建設部理事	成田裕幸
水道事務所長	江川敦夫	教育次長	谷輪吉伸
消防長	田邊隆義	病院事務長	神保佳紀
経営企画課長	大松満至	防災安全課長	上田敏寛
総務課長	御前一晃	市民課長	馬倉三喜
生活環境課長	石井哲也	福祉課長	松村尚彦
健康課長	山崎希恵	高齢介護課長	若松伸行
産業振興課長	鎌田利宏	有田みかん課長	大浦秀和
建設課長	脇村哲弘	会計管理者	森川直子
教育総務課長	伊藤正人	生涯学習課長	嶋田実明
市民会館館長	岩田吉広	消防本部次長	梅本敦夫
医事課長	山下剛	庶務課長	石井絹代

議会事務局職員

局長	田中聡	次長	福永康一
書記	大谷真也		

午前10時00分 開議

○議長（生駒三雄君） 皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員数は15人であり、定足数に達しております。これより、本日の会議を開きます。

日程に入るに先立ち、諸般の報告をいたします。12月12日に開催されました予算決算委員会において、委員長の浜口元司君が辞任され、後任に福永広次君が委員長に互選されました。福永広次君にはよろしく願いいたします。

以上で、諸般の報告を終わります。

これより、日程に入ります。

日程1、一般質問を行います。

まず、3番成川満君。

〔3番 成川 満君 登壇〕

○3番（成川 満君） 皆さん、おはようございます。成川満でございます。有田市役所で44年間仕事をさせていただきました。今また立場を変えまして市議会議員として、ふるさと有田市の発展に全力で取り組んでまいります。皆さん、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、通告によりまして一般質問を行います。

今回は、国道42号有田海南道路の整備について質問をいたします。

今から12年前のことですけれども、国土交通省のほうから国道42号有田海南道路の事業計画が公表されました。その設定されましたルートを見て、新堂地区の住民が騒然となったことを今でもはっきりと覚えております。新堂村は皆さんご存じのとおり、長峰山脈の麓にあって、東西に長く集落が形成されておりまして、村人は代々、数百年にわたって、主にミカンづくりを生業として静かに暮らしておりました。その新堂地区のほぼ中央部で人家が一番密集しているところを、ちょうど集落を2つに分断するような形でルートが設定され、しかも高架式で上空を車が通過していくという計画が示されたのです。住民の間では、集落としての一体性、またミカンの里としての景観イメージを損なう。騒音、排気ガスの影響、落下物の危険等、不安を訴える声が相次いで起こりました。何よりも、何の前触れもなく、突然に設定されたルート上に暮らしている方々の驚きととまどいは、想像にかたかないところです。当時、新堂の人々にとっては、まさに青天のへきれきという事態だったのです。

それからときがたちまして、事業の着手から11年が経過するところとなりました。現在、整備ルートの沿線各地では、盛んに工事が行われており、有田川をまたいで野・新堂間を結ぶ架橋工事も着々と進んでおります。そして、事業の早期完成、道路の早期開通に向けて、国、県、市が連携して努力を重ねておられまして、道路の完成によって有田海南間の道路事情が大きく改善され、利用者に大きな恩恵をもたらすと、日増しに期待の聲が高まっているところです。

そこで、まず1点目の質問です。冷水拡幅事業も含めたこのバイパス事業計画の意義、概要、そして進捗、完成見込みについて説明をいただきたい。

次に2点目、今後新堂地区の住民が暮らしている集落のほうに工事が進んでいくこととなりますが、住民への工事情報の説明、周知、それから安心と安全のための対策をどのよ

うに考えているのか説明をお願いします。

3点目、この計画道路のより利便性を高めるためには、周辺の幹線道路からのアクセスが大変重要であると考えますので、市としてどのような考えを持っているのか聞かせていただきたい。

4点目、この道路が完成し供用が始まると、人、物の流れが大きく変わり、さまざまな効果やまた影響が出てくると予想されます。お隣の海南市下津地区では、現在の国道42号の交通量が減少することを前提として、この新しい道路を利用した地域の振興、活性化事業の一つとして農林水産物の販売所、多目的広場等を併設した大規模な道の駅の整備計画が進められております。

さて、有田市としては、まちづくりの視点から、この道路の利用、そして活用をどのように捉えて、地域の振興、活性化を考えているのかを伺いたいと思います。よろしく願いします。

以上で、壇上での質問を終わります。

○議長（生駒三雄君） 脇村建設課長。

○建設課長（脇村哲弘君） 御質問1点目の冷水拡幅事業も含めた国道42号有田海南道路の事業計画の意義、概要、進捗状況、完成見込みについて御答弁申し上げます。

まず、事業の意義でございますが、平成4年度に有田下津周辺道路整備促進協議会が発足してから、平成17年度に国道42号有田海南間整備促進協議会に移行し、約30年にわたり、先人たちの御尽力により、現在に至っております。両事業とも、災害時の緊急輸送道路の代替路及び現道国道の修繕に係る代替路として、またピーク時の大規模渋滞の解消及び事故危険区間の解消を目的に事業を行っております。

次に、事業計画の概要でございますが、冷水拡幅につきましては、平成19年度に事業化され、有田海南道路と接続する海南市冷水地区から海南市藤白地区までの1.1キロメートルの現道拡幅事業となっております。

有田海南道路につきましては、平成20年度に事業化され、有田市野地区から海南市冷水地区までの9.4キロメートルとなっております。全体事業費につきましては、冷水拡幅で約61億円、有田海南道路については約620億円となっております。また、進捗状況であります。冷水拡幅においては、現在まで事業費約60億円を消化しており、藤白トンネルの撤去が、ほぼ完了し、4車線化に向けて、引き続き道路改良工事を推進中であります。

有田海南道路につきましては約170億円を消化し、野地区において、現在国道42号のかさ上げ工事を施工中であり、今年度完成予定でございます。

次に、有田川にかかる1号橋につきましては、橋台、橋脚が完成し、現在、橋桁の制作を発注しております。新堂地区では、国道480号の振りかえ工事と盛土工事を施工中で、有田市域では、用地買収及び物件保障契約は、全て完了しており、残っていた物件、建物等につきましても、少しずつではありますが撤去が進んできている状況でございます。

続きまして、完成見込みについてでございますが、国土交通省では、現時点で完成時期については公表されておられません。今後、予算の配分や事業の進捗を見ながら、完成時期については公表していただくと聞いております。できるだけ早期に完成するよう、国土交通省に要望してまいりますので、御理解をお願いいたします。

次に、2点目の御質問についてですが、議員仰せのとおり、今後、新堂北地区の住宅密集地へと工事が進んでいくと思われまます。地区への情報提供や地元説明会については、地域の声や要望等を見無視することなく、きめ細やかな説明をしていただけるよう、また安全対策等につきましても、近隣住民が安心して納得できるような説明をしていただけるよう、国土交通省に強く要望、依頼していきたいと考えてございます。

次に、3点目の、周辺幹線道路の整備についてであります。有田海南道路に連絡する主要幹線道路といたしましては、野、新堂地区からは、国道42号と国道480号、初島地区からは、国道42号と星越池の改良によりアクセスが可能となります。それぞれ、国道に合流する主要な幹線道路として、市道6号線、望月港線と市道56号線があり、市道6号線については、新堂地区の国道480号との合流部で交差点改良に係る測量設計を県に対して実施中でございます。野地区の市道56号線におきましては、国道42号へ安全かつスムーズに合流できるよう、水路部分を暗渠化しながら、道路拡幅工事を継続して実施中でございます。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 大松経営企画課長。

○経営企画課長（大松満至君） 4点目の地域振興のためのまちづくり計画について御答弁申し上げます。

30年越しの悲願でありました国道42号線有田海南道路が、市の中央を通ることによりまして、市全体に大きな効果が期待されます。当市におきましても、バイパスの開通を大きなチャンスと捉えており、市外からのアクセス性向上という点に着目し、みかん海道から現在建設されております産直施設「新鮮市場浜のうたせ」などの観光施設を軸といたしました周遊ルートを構築することで、市内全体で観光消費を増加させることが可能と考えております。

そして、和歌山市や大阪府南部への通勤が容易になることが想定できますので、ベッドタウンとしての環境整備を行うことで、定住人口の獲得へとつなげることも重要であると考えており、令和6年度の開校を目指しております統合中学校につきましても、先進的な教育環境を整備し、他市町村からも通いたいと思える中学校の建設など、都市再生整備計画を立てて進めております。

また、この道路の開通後に、市内各地域のおかれる状況を検証し、その特性に応じて適切な役割を設定することが重要になってくると考えておきまして、現在、都市計画マスタープランの見直しにも着手しているところでございます。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 3番成川満君。

〔3番 成川 満君 登壇〕

○3番（成川 満君） 御答弁、ありがとうございます。

質問の1点目、事業計画の概要、進捗、完成見込みについては了解しました。事業の早期完成に向けて、関係機関連携のもと、さらなる努力をよろしく願いいたします。

2点目の人家密集地域の対策につきましても、当該地域での工事が始まりますと、周辺地域にかなりの負荷がかかると思われまますので、住民の皆さんに十分な御理解をいたくとともに、建設される道路につきましても、安心と安全のための対策に万全を期していただ

くよう要望して、これも終わります。

3点目、幹線道路の整備計画ですが、当局の説明にあったように、国道42号と国道480号が主要なアクセスとなりますが、市内の幾つかの箇所では利便性、安全性を高めるための交差点改良など課題がありますので、国、県に対して整備促進方の要望をよろしくお願いいたします。

また、幹線市道につきましては、市道6号線の望月港線と市道56号線の利用者が、今以上に増加すると見込まれますので、さらなる改善、整備をお願いいたします。

特に、市道6号線の箕嶋神社北側の部分については、長い間、大変危険な状態が続いておりますので、1日も早い解消を目指して頑張ってくださいと思います。

それから、野・新堂間を結ぶ新しい橋が完成しますと、将来、兩岸の周辺地域で市街地化が進むことが予想されます。これらを見据えて、周辺地域の道路、下排水路など生活基盤の改善、整備を進めていただくよう、これも要望して3点目を終わります。

さて、最後に、4点目の地域振興のためのまちづくり計画ですが、一言で言いますと、国は道路をつくってくれるが、地域の振興活性化までは考えてくれない。この道路をいかにして地域の振興、活性化に生かしていくかは、この地域に住んでいる私たちが一生懸命、知恵を絞り、汗をかいてつくり出していかなければならないものです。当たり前なことなんですけども。

そこで、ちょっと完成後の道路を、この議場におられるみんなでイメージをしてみたいと思います。まず、大阪方面から車で来ます。海南インターチェンジであります。この辺に有田市方面という案内板が必ず必要です。国道を南に向かいしばらくするとトンネルに入ります。山合いの道を通り、五つトンネルを抜けたところで急に視界が広がり、有田市に入ります。一番最初に有田市とコンタクトするところが国道480号です。このあたりに何か有田市をイメージするモニュメントなんかをつくったら面白いと思います。

次に、有田川を渡ります。もう皆さんお気づきだと思いますが、この橋から見える景観がすばらしい。東は奈良県との県境、西は紀伊水道を越えて徳島県まで空間が抜けております。多分、和歌山県下では唯一の場所だと思います。この景観こそが、このまちの大きな財産であり、魅力だと思います。そして、橋を渡ると、今度は国道42号と直角に交差します。正面に大きな案内板を設置するのに絶好の場所として、例えば右へ行くと箕嶋漁港、左へ行くと熊野古道といった感じで、国道42号の名物になるようなおもしろいものが考えられないかと思います。

そして、その先、その先へとどんどんイメージを膨らませていきますと、きっと夢のあるおもしろいアイデアが幾つも幾つも生まれてくると思います。みんなで一緒に考えていきたいと思います。

それから、先ほどの答弁の中で、都市計画マスタープランの見直しに着手しているという話がありましたが、60年前にまちづくりの基本として、都市の健全な発展と整備を行うことを目的につくられた有田市の都市計画そのものが、いまでは現状にそぐわない、また逆に発展を阻害していることが多々あると思われまます。大変なことではあるんですけども、抜本的な見直しを行い、再調整しなければならないときがきていると思います。ぜひ、この機会に見直しの検討をお願いします。

さてここで、今回せっきくの機会ですので、まちづくりの視点から2つの提案をさせていただきたいと思います。1つは、安諦橋から、今回建設されるバイパスの1号橋にかけまして、有田川の低水護岸と国道480号との間を公園化してはどうかというものです。今、全国的に急速な人口減少と高齢化社会の到来を受けまして、都市のいろんな機能を集約して、歩いて暮らせるまちづくりを推進するということで、コンパクトシティー化というのがよく言われます。有田市を見てみますと、JR箕島駅を中心としたこの地域は、ほかのまちに比べるとかなりコンパクトシティー化が進んでいると思います。ただ、残念なことに、市民の誰もが集える憩いの広場、公園の機能がありません。遊歩道、多目的広場、現在、競技人口がふえておりますグランドゴルフ場、駐車場、あるいは緊急時のヘリポートなどを備えた公園づくりを提案いたします。

それから、もう1つは道の駅の設置です。現在、道の駅は全国で1,160駅、和歌山県下に34カ所がありまして、毎年これはふえ続けております。24時間無料で利用できる駐車場、トイレなどの休憩機能、道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供する情報発信機能、文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設との地域連携機能、災害時の防災機能などを備え、地域のにぎわいの場として各地で盛んに利用されているところです。

道の駅の設置場所ですけれども、有田川の両岸に平行して2つの国道が通っている、これはなかなか全国でもまれなところだと思います。そして、ふるさとの川総合公園という大規模な公園があるというところから、有田中央大橋の周辺がよいと思います。国道と公園の利用者にとっては、大変便利で安心できる施設になると思います。また、学校統合の見地からも、JRの乗降客の増加に伴う初島駅、宮原駅周辺の整備とともに、この道の駅の設置は大変大事であると考えます。

以上です。国道42号、有田海南道路を活用した有田市のまちづくりについて市長の見解を伺いたいのので、よろしく願いをいたします。

○議長（生駒三雄君） 望月市長。

○市長（望月良男君） お答えいたします。

有田市には高速のおり口がないという、昭和59年に海南湯浅道路が開通して以来、道路インフラ整備の重要性を痛感してきた有田市では、これまでも諸先輩方がたゆまぬ活動をされ、そして多くの有田市民の悲願であった42号線、有田海南道路が約30年越しに実現しようとしています。有田市の行政を預かる私としましても、平成20年に就任以来、当市、有田市の最重要課題の1つとしてこのことに取り組んでまいりました。

担当課から答弁をしましてとおり、有田市内においても、橋脚工事や盛土工事が目に見える形で進められ、皆様も大いに期待されているものと受けとめております。有田市のほぼ中央を通ることにより、市全体に大きな効果が期待され、有田市への人やものの新たな流れが生まれ、定住人口や交流人口の増加に寄与するものと考えているところであり、有田市にとって、一つの転換期とも捉えております。

就任した20年、当時は本当に厳しい財政状況の中で先延ばしできないと考えた小中学校の耐震化に取り組みながら、財政の健全化を優先してまいりました。そしてようやく、財政健全化の成果があらわれはじめ、またふるさと応援寄附制度という新たな制度を活用で

きる今、「まちの魅力と活力を生み出す投資」と「持続可能な自治体経営への投資」、この2つの投資が次世代のために必要と考えているところでございます。

未来のまちづくりにとって、道路整備は重要なファクターであります。事業費も大きくなる中で、一日も早い完成に向けて引き続き努力をしますとともに、成川議員からいただいた御提案も踏まえ、市全体で知恵を出し、汗をかくことも重要だと思っております。いずれにしても、魅力と活力のあるまちづくりにスピード感を持ってチャレンジしてまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（生駒三雄君） 3番成川満君。

〔3番 成川 満君 登壇〕

○3番（成川 満君） 御答弁ありがとうございます。自分なりに一生懸命考えて提案をさせていただきました。これについて、もう少し御見解伺いたかったんですけども。せっかくの機会ですので、地域振興のためのまちづくりにかける市長の熱い思い、そして意気込みを、もっとお聞かせいただきたいところですけども、今回は質問をこれで終わりたいと思っております。今後、当局に対しまして、厳しいことを申し上げることもあるかと思っております。適度な緊張感、適度な距離感を持って、お互いに切磋琢磨して市民の皆様の福祉の向上に努めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

今、私たちをとりまいている社会環境は、目まぐるしく変化をしております。少子高齢化社会の到来、AIなどテクノロジーの発展、気候変動による災害の多発等々、まさに大変革のときを迎えております。この大変革期に私たちにとって何が必要なのか、何をしなければいけないのか、一生懸命考えて、そして対応していかねばなりません。住み続けられるまちづくりを目指して、みんなで一緒に元気に頑張っていきましょう。

終わります。

○議長（生駒三雄君） これにて、3番成川満君の一般質問は終わりました。

次に、4番小西敬民君。

〔4番 小西敬民君 登壇〕

○4番（小西敬民君） 前回に引き続きまして、一般質問をさせていただきます。10月に消費増税が行われました。その影響が、最近新聞発表され、前年同月比マイナス5.6%となり、消費税が引き上げられた14年4月のマイナス4.8%を上回りました。安倍首相は、財政措置に13.2兆円を含め、来年度予算の一般会計へ組み込むことを発表しました。金融や民間からの支出を含めたら26兆円規模となり、財政再建を遠のかせることとなり、消費税2%はアベノミスと言わざるを得ないと思っております。

和歌山市ぶらくり丁商店街訪問の約25軒のアンケート集約では、売り上げ減が12軒（48%）変化なし13軒（52%）となり、利益が減ったが14軒（56%）調査に応じた業者が一番消費税を転嫁できずに内税で同じ値段で販売している。年内で私どもは廃業だと答えたのが3軒ありました。また、インボイスは知られていないなどがわかりました。消費増税の影響は零細商店など大変な事態となり、やはり消費税は少なく税収の中心に据えるべきでない、消費税は5%に戻せという声が広がりつつあります。

私は今回も国保税の軽減策を取り上げます。有田市のホームページを見ると、ことし

1月1日現在の住民基本台帳では、人口は2万8,088人となっております。最高時3万6,000人だったことを考えると、隔世の感があります。5年ごとに実施される国勢調査では、2010年で3万592人、2015年では2万8,470人になり、減少率は6.9%で、県下9市の中で新宮市とともに最悪の結果となっております。これまでの減少傾向を考えると、これから有田市はどうなっていくのだろうか心配になります。

ところで、当市も利用している厚生労働省の国立社会保障人口問題研究所という機関があります。毎年、地域別将来推計人口をホームページに載せており、全ての都道府県と市町村の推計人口を5年単位で出しております。私はその人口予測を見て、有田市の将来にとって背筋が寒くなるような数字が出ていたことを報告せざるを得ません。来年の2020年で2万6,320人減少率は7.6%、2025年で2万4,131人、減少率8.4%、2030年で2万1,970人、減少率9%、2035年で2万人を切り1万9,854人、減少率9.1%となり、2040年、2045年というふうになりますと10%単位で減少していく。有田市の人口は加速度的に減少していくのであります。6年後、2025年では、お隣のまちの有田川町の推定人口は2万4,833人なので702人有田市と逆転した数字となっております。皆さん、これらの人口予測を見て、これからの有田市の将来ビジョンを語る時に、常に市民本位の施策を考慮しなければならないと考えるところであります。住民こそ主人公の理念を掲げて、住みやすいまち、住みたくなるまちを目指していくことが有田市行政に強く求められているのではないのでしょうか。

それでは、国保税の減額を要求する一般質問を行います。国民健康保険税について、前回に引き続き質問をさせていただきます。平成30年度国保特別会計の決算書によりますと、保険料収入では、当初予算で8億2,000万円ですが、収入済額で9億6,400万円、差額は1億4,400万円の増額であります。それに対して保険給付費は当初予算では27億4,400万円ですが、支出済額が26億9,100万円、5,200万円の減額であります。これらの数値を見ると、収入の保険料は極めて少な目に見積もり、保険料支出費は逆に多目に見積もっているのではないかと勘繰りたくなるのであります。

また、国保会計の積立金は、平成29年度末で6億1,800万円ですが、平成30年度だけで1億2,600万円が加算され、平成30年度末では7億4,400万円と大幅に増加しているのであります。

前回の質問の回答では、平成30年度の国保に加入されている方は4,835世帯、1世帯当たり平均21万9,134円、人数で8,777人、1人当たり平均12万9,172円とのことであります。

国保の財政調整基金の積立金では、和歌山県下の8市の状況は橋本市で約6億円、田辺市で約5億円、海南市で約2億円、岩出市で90万円、和歌山市、御坊市、新宮市、紀の川市の4市に至っては、基金を1円も保有していないとの回答をいただきました。そこでお伺いしますが、令和元年の有田市の国保会計の収支見込をどのように見積もられているのか、まずお聞きいたします。

次に、18歳までの医療費無料化についてであります。

子育て世代の満足度の向上につながるものであり、市の判断で実現可能な施策であることから、令和2年度より医療費無料化を実現していただきたい。有田郡市内の格差はやはり埋めるべき課題であるということをお伺い申し上げます。お隣の御坊市が実現できるということをお伺いしました。これについて、答弁をお願い申し上げます。

次に、子ども・子育て会議についてであります。

子供は地域の宝、次世代の希望であり、将来の有田市を担う子供を育てることは、明るい未来をつくり出す源だと考えます。子供たちが将来にわたって有田市に住み続けたいと思えるまちづくりに貢献することが、私たちの役割であると考えます。

地域で子供をどのように育てていくのか、子育て支援をどのように展開していくのか、そういったことを盛り込んだ、子ども・子育て支援事業計画は重要な計画であると考えますが、平成27年度から実施している第1期計画で取り組んだ主な事業について御説明願います。

ふるさと応援寄付金についてお伺いします。広報ありだに、来年度予算編成方針に対する考え方が掲載されました。1つにまちの魅力と活力を生み出す投資、2つに持続可能な自治体経営への投資です。前年度予算では、財政健全化の成果とふるさと納税制度に積極的に取り組んでいることにより、新たな財源の確保につながり、未来への投資の環境が整いつつある、スピード感を持ってチャレンジすると8項目の課題を上げています。ふるさと応援寄付金について、直近3年間の実績や効果、市への影響もあわせてお答えください。

有田市立病院の産科医の確保についてお伺いいたします。

平成30年度医療機関の出生数を調べてまいりました。有田市民がどこで出産をしているかという数字であります。有田川町のしまクリニックさんの41名を筆頭に、有田市立病院で29名、和歌山県立医大附属病院で19名、日本赤十字社和歌山医療センターで14名、花山ママクリニックで11名、稲田クリニックで8名、その他を含め合計151名であります。市立病院の重要な施策として、出産機能を持つ産婦人科医を招聘できたことは、この3年間大きな成果でございました。しかし、3月末をもって先生が退職されるということで、またこの医者探しが今始まっています。私どもも分娩再開について住民運動も含め要望していかなければならないというふうに考えております。現在の状況がおわかりでしたらお答えをよろしくお願いいたしまして、壇上での質問を終わらせていただきます。

○議長（生駒三雄君） 山崎健康課長。

○健康課長（山崎希恵君） 1点目の1項目め、令和元年度の国保会計の収支見込みにつきましてお答えします。

国民健康保険税額については、被保険者の前年中所得による影響が大きく、平成29年度、平成30年度とも所得の増加により、保険税収入が予算額より1億円余り超える結果となりました。今年度は、近年の所得状況を予算額に反映した結果、11月末の調定額から推測すると決算見込みは大きく予算額を超えることはない状況でございます。

また、保険給付費については、30年度からの国保制度改革により、県から保険給付費等交付金が入ってくるため、歳入歳出ほぼ同額となります。他の県交付金で交付決定がなされていないものや、今の段階で未確定のものを予算どおりと見込むと、はっきりとした数字でお答えすることはできませんが、前年度繰越金がある分、実質収支は黒字となる見込みでございます。また、令和元年度末の国民健康保険財政調整基金現在高見込みは約9億円でございます。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 松村福祉課長。

○福祉課長（松村尚彦君） 続きまして1点目、令和2年度の予算編成に関し、18歳までの医療費無料化について御答弁申し上げます。

子育て世代の経済的負担の軽減を求める声は大きいと認識しております。しかし、市民生活に密接にかかわる医療費助成制度が、住む地域によって格差が生じていること自体が大きな問題であると考えております。

まず、国に対して引き続き要望し、国の施策として実施するよう求めることが重要であると考えておりますので、令和2年度において予算措置することは考えておりません。

続きまして、子ども・子育て会議に関し、第1期計画で取り組んだ事業について御答弁申し上げます。

第1期有田市子ども・子育て支援事業計画については、平成27年度から今年度末までの5年間の計画期間としたものであり、現在取り組んでいるところでございますが、主な事業3点について御説明申し上げます。学童保育事業は、就労などにより昼間保護者のいない家庭の小学生を対象に放課後の預かりを行う事業でございますが、これまでは3カ所で行ってございましたが、平成29年度より市内全ての小学校区で行っており、現在は7カ所となっております。これに伴いまして、利用者も大幅に増加しており、登録児童数は、平成27年度129人に対し、平成30年度では314人とおよそ2.5倍となっております。

次に、地域子育て支援拠点事業は、親子で集い交流できる居場所を提供し、子育てについての相談や助言を行うことを目的に行っている事業でございます。実施場所をこれまでのそとはま保育所から平成30年度にオープンしました子育て世代活動支援センターWakuWakuに移したことで、利用者も大幅に増加しており、平成27年度7,546人に対し、平成30年度では2万2,014人とおよそ3倍となっております。

ファミリーサポートセンター事業は、例えば仕事が遅くなるので保育所へ迎えに行くことができないなどといった場合に、事前に登録した会員同士で育児支援を行うというもので、子育ての援助を受けたい方と援助を行える方の橋渡しを行う事業でございます。今年度から新たにに取り組んでいるところであり、現在の登録者数は9人であり、現時点では、まだ会員相互の支援実績はございませんが、今後よりきめの細かい育児支援につながるものと考えております。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 成田経済建設部理事。

○経済建設部理事（成田裕幸君） 続きまして、ふるさと応援寄付金事業につきまして、直近3年間の寄付実績と寄付額ともに選ばれている記念品とその記念品に対する評価、それと市に対する影響について御答弁申し上げます。

有田市におけるふるさと寄付金応援事業については、当初から地場産品にこだわり、農家や加工品製造業者等とも密にコミュニケーションをとりながら、記念品のラインナップ充実や品質管理等に取り組んでいます。

御質問をいただきました平成28年度から30年度までの寄付実績ですが、平成28年度件数が5.7万件、金額が7.4億円、平成29年度は9.2万件で12.3億円、平成30年度は9.4万件で12.6億円となっております。

例年記念品として選ばれる件数が多いものとしたしましては、ウナギ、ミカン生果、そ

れからミカン加工品といったところです。これらについては、大手ポータルサイトにおける寄付者の評価において5点満点中4点以上いただくなど、特産品として非常に質が高く、寄付者の皆様から高い評価をいただいていることも、好調な寄付実績の要因であると考えております。

本制度の活用による効果については、まず、市への寄付金収入の観点から申し上げます。寄付の際、寄付者には教育及び文化に関する事業、産業、観光及び交流に関する事業、保健福祉及び医療に関する事業、図書活用に関する事業、スポーツ振興に関する事業、そして市長にお任せの6つの使い道から1つを選択していただきます。市は使途別の合計額に基づきまして、原則として基金に積み立てた後、必要な額を市の事業の財源として活用することとなっております。

次に、市内に対する効果ですが、記念品調達によるミカン農家や加工品事業者の売り上げ収入向上にとどまらず、新たな販路開拓によるビジネスの拡大など、地域によい影響をもたらしていると考えており、今後も制度の趣旨にのっとり、地場の産品や地域資源を大事にしながら、積極的に制度を活用することで有田市の活性化につなげてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（生駒三雄君） 石井病院庶務課長。

○庶務課長（石井絹代君） 3点目の有田市立病院産科医確保につきまして御答弁申し上げます。

産婦人科常勤医師の退職に伴い、分娩を休止せざるを得ない状況になったことにつきましては、さきの9月定例会時にも御報告させていただいたところではございますが、少子化の中で、周産期小児医療の充実は必要不可欠であると考えております。これまでも、産婦人科常勤医師の招聘に向けて、和歌山県及び和歌山県立医科大学、産婦人科学講座への医師派遣要請など、あらゆる方面に働きかけてまいりましたが、現在、医師招聘に至っていないのが現状でございます。

また、各団体から分娩の継続、再開に対する要望やさまざまな御意見を多数いただいております。これらの要望にお応えするためにも、また将来にわたり安心して子供を産み育てることができるように、関係各位の御尽力を賜りながら、産婦人科医師招聘に向けた取り組みを全力で行ってまいります。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 4番小西敬民君。

〔4番 小西敬民君 登壇〕

○4番（小西敬民君） 国保の積立金が9億円に上っているという報告でございます。他市との関係でも非常に高額な基金の積み立てではないでしょうか。ぜひ、この基金を活用して国民健康保険料の減額に対して使うべきだと考えますが、再度お答えを願います。

○議長（生駒三雄君） 山崎健康課長。

○健康課長（山崎希恵君） 再質問にお答えいたします。

基金を使って保険税負担の抑制に努めたいと考えております。それとともに、医療費の適正化に努め、保険制度の安定的な運営を図り、安心して医療を受けられる体制づくりに

努めてまいります。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 4番小西敬民君。

〔4番 小西敬民君 登壇〕

○4番（小西敬民君） それでは引き続きまして、今のお答えは9億円の使い道は決まっていますというふうなことがありますが、一人一人の市民感情に照らすとやはりどんどん使えるところは活用すべきだと。9億円は市の基金ですので、誰にも文句言われぬというふうな思いでございます。

続けて再々質問で、1点目の低所得者などの社会的弱者への減免制度の拡充、2点目、子供世帯の負担軽減を図る、子供に係る均等割りの減免措置、3点目、前期高齢者への減免、これについてももう少し詳しくお答えを願いたいと思います。

○議長（生駒三雄君） 山崎健康課長。

○健康課長（山崎希恵君） 再々質問にお答えします。

1点目の社会的弱者への減免制度の拡充についてですが、国民健康保険税の軽減措置として、所得状況により、均等割、平等割の7割、5割、2割の軽減があり、毎年経済動向等を踏まえ、軽減対象所得基準額を引き上げているところでございます。

一方、所得割、資産割については軽減措置がなく、また国民健康保険税は前年中所得に対し課税されるため、賦課の時点で所得状況が異なり、滞納となる被保険者もいらっしゃいます。短期被保険者証は短期間に折衝の機会を持つために交付し、納税相談により、事情や払込能力の把握に努め、一括納付が困難な場合は、分割納付にも応じています。また、災害等減免制度もあり、さらなる減免制度の拡充は今のところ考えておりません。

2点目の子育て世代への支援についてですが、県市長会からも要望事項として毎年上げております。また、近畿都市国民健康保険者協議会からも子供に係る被保険者均等割額の廃止と、廃止に係る財政支援を国に要望いたしました。今後の国の動向に注視してまいります。現状、国からの財政支援がない中、市独自で減免を実施すると、子育て世代以外への負担がかかることから、独自実施は考えておりません。

3点目の前期高齢者への減免についてですが、制度間の医療費負担の不均衡を調整するため、前期高齢者の割合が多く、医療費負担が重くなっている国民健康保険に前期高齢者交付金が入っています。交付金以上の医療費負担が必要で、決して交付金により国保会計が潤っているわけではありません。前期高齢者の人数は、被保険者数の約40%で、減免するとなれば、前期高齢者以外へ負担が大きく係ることとなるため、前期高齢者への減免についても考えておりません。いずれにしましても、国保制度改革により、県が財政運営の責任主体となり、市町村が担う事務の効率化、標準化、広域化を推進することとなっておりますので、減免基準も含めて、今後、県と市町村で協議していくこととなります。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 4番小西敬民君。

〔4番 小西敬民君 登壇〕

○4番（小西敬民君） 建前はよくわかりました。しかし、基金が9億円というのは、やはり取り崩す要因の1つであると思いますので、国や県が制度改革というよりも制度改悪

をして、市町村の会計に対して圧力が加わってくる、こういう点からしたら大変な世の中だなというふうに思いますが、基金の取り崩しをし、市民が安心して暮らせるそういう医療にかかれる国保制度を実現していかなければならないというふうに考えています。よろしくをお願いします。

2点目の子ども・子育て会議であります。次の第2期の子ども・子育て支援事業計画が令和2年度から6年度にかけて、今策定をされているというふうに思います。アナウンスも含め、新たな方策を考えられているのか、お答えを願いたいというふうに思います。

○議長（生駒三雄君） 松村福祉課長。

○福祉課長（松村尚彦君） 御答弁申し上げます。

第2期有田市子ども・子育て支援事業計画については、令和2年度から今後5年間で計画期間としたものであり、15人で構成される子ども・子育て会議において、現在策定に向けた検討を行っております。現状認識も必要でございますので、アンケート調査を実施しております。アンケート結果からは、本市を取り巻く状況も5年前と比べ変化をしております。祖父母とともに暮らす児童は減少し、核家族化が進んでいる傾向があらわれています。

また、小学生児童の母親の就労が進み、女性の社会進出が進んだという結果もあらわれております。このような状況をふまえながら、第2期計画では多様な保育ニーズへの対応、障害のある児童への支援、支え合う地域社会づくりに加えまして、議員御指摘のアナウンスということでございますので、子育て情報の発信につきましても、モバイル端末を活用した周知など、それぞれの課題に対応した計画とするべく取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 4番小西敬民君。

〔4番 小西敬民君 登壇〕

○4番（小西敬民君） 市長の新しい財源をつくるという意味で、ふるさと応援基金について先ほど効果について述べていただきました。

それでは、次のふるさと応援基金については、今基金残高はどのくらいあって、どういふところに来年度予算は使われるのかをお教えいただきたいと思っております。

○議長（生駒三雄君） 大松経営企画課長。

○経営企画課長（大松満至君） 再質問に御答弁申し上げます。

まず、平成30年度末のふるさと応援基金の残高でございますが11億3,029万円となっております。先ほど、成田理事の答弁でも申し上げさせていただいたとおり、寄付者の思いを実現するために定められました事業に活用してございまして、今年度も8億6,000万円を取り崩しまして、教育環境の充実、子育て支援、地域産業の発展・維持に資する事業やBIG SMILEプロジェクトなどの大型事業の財源として充当する予定でございます。

また、今後の活用につきましては、統合中学校の建設やBIG SMILEプロジェクトに係る都市公園など、大型事業の財源確保は財政運営上の課題でございまして、これら、未来に向かった投資となる重点施策を中心に基金を活用させていただく考えでございます。

以上です。

○4番（小西敬民君） 先ほど御答弁された中身は、この広報ありだ11月、それから12月

に広報ありだとして回った文章を披露されていました。特にここで気になるのは、ことしの漢字を選ぶとすると「実」です。これまで推進してきたさまざまなプロジェクトが実を結びつつあるということ、そしてことしも来年も再来年度も地場産業である有田みかんを多くの皆様に実感していただけるよう、これはプラチナ大賞をいただいたということで経産省から賞をいただいたという中身でございますが、締めくくりに「これからも実のある行政運営を進めていきたいという思いを込めている」ということで結ばれています。

その前の11月号では、8つの課題、福祉、医療、住みたいからあるわけですが、大型公共事業に経費がこれから大変かかるそういう背景を言われておるわけですが、その課題を客観的に把握した上でありたい姿を導き出す。この10年間財政が大変だったというのは、望月さんも含め市の職員は感じておるところであるわけですが、また箱物づくりに終わらない、箱物をつくれれば維持運営費、それから起債、返済が待っております。ですから、この新しい資本を得るためにふるさと創生資金のこの応援基金を充てなければならないということで、来年度予算に今までのほぼ倍の30億円の売り上げを見込んでおる。ふるさと応援基金は約5割は返されるわけですね。だから30億円であると15億円が残る。これを将来もっと多くして自主財源として残して使うんだ、そういうのはよく希望と期待はわかりますが、最初述べた人口減少に歯どめをかける、2万人を切らないようにする、そのために箱物だけでは困るわけで、そこに福祉、このものが入ってこないとだめです。国民健康保険の減額なんかでもそうですし、国の制度がまずいから国が福祉を持つべきだ、私たちもわかります。でも国はなかなか全国自治体でも国民健康保険会計1兆円を導入すれば楽になる、やってください、全国市長会で町村がやる事業についてペナルティーを課せている、このペナルティー制度をやめてくれということも言っておられます。つまり、当市も中学卒業までの医療費無料化をやったがために、そのためにペナルティーをもらっているということになります。高校生の18歳医療費無料化2,100万、これをやれば、またペナルティーがかかってくる。

ですから、自治体が横並び、国の言うとおりにということをやっていけば、残念ながら人口減に歯どめがきかないというふうに考えております。ですから、有田市の将来の基本に福祉が重視される。そういうまちづくりを8つのプロジェクトの中に、当然強弱はありますが、福祉を常に追い求めていただきたいというふうに思います。

町村の地方自治体のやることについて、国が気に入らんからといったペナルティーをかけるというのは、本当にまことにもって遺憾なことだというふうにも思っております。ぜひ、皆さん方がお知恵を合わせて、今後の市政運営について頑張られる、このことをお願い申し上げます。

来年3月の予算議会について、ぜひかんかんがくがくとの議論の上で、市民生活に光を与える、こういうことをお願いを申し上げまして、今回の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（生駒三雄君） これにて、4番小西敬民君の一般質問は終わりました。

次に、9番中谷桂三君。

〔9番 中谷桂三君 登壇〕

○9番（中谷桂三君） 皆様、こんにちは。会派市民クラブを代表して議長のお許しを得

まして通告準に従い、壇上より一般質問をさせていただきます。

まず1点目の箕川護岸崩壊対策についてお尋ねいたします。

私は、この件に関連して何度か一般質問をさせていただいています。一番の直近では、平成30年6月定例会でさせていただきました。一向に進まない箕川護岸崩壊対策について、何とかできないかとの切羽詰まった市民の声を代弁して一般質問しました。そのときの当局は、「今後については必要に応じ、緊急性の高いところから修繕を実施する」との答弁をいただきました。

最近、箕川沿線で水稻栽培している方たちから、なかなか護岸改修の進展がなく、毎年6月上旬の田植え作業の後から10月末の米の収穫までの約4カ月間、水田の水管理時は毎日箕川護岸を歩かなくてはなりません。また米の収穫後は、雑草の除去等、護岸を1年間通して歩く必要があります。私は歩行するのも不安な護岸状況の苦情をお聞きし、現場も確認しています。私の自宅も箕川沿線で、まだ護岸改修がされていない場所です。進捗がかなり遅れているように感じています。その後、約1年6カ月が経過しました。箕川護岸崩壊対策の現状と今後について答弁をお願いいたします。

次に、2点目の市民会館活用についてです。

私はこの件に関連して、平成29年6月定例会でさせていただきました。そのときは、私自身がこの数年間は御坊市が実施している市民教養講座を受講していたこともあり、幅広い講師の方の講演をお聞きし、とても勉強になり、人生の中でも教養や文化的な知識向上が図れたことが、すばらしいと感じていたので、一般質問の前に御坊市役所を訪問し調査したところ御坊市では昭和54年の御坊市制25周年記念イベントとして市民教養講座が開催され、40年間継続されています。各郡町村会から1名ずつと御坊市からは文化協会会長を初め、有識者で構成する市民教養講座運営委員会12名が企画運営しています。入場料収入は前売り販売のみで通し券のみです。毎年、前売り販売日に完売という好評です。御坊市からは不足する補助金を受けて運営しています。ちなみに2019年度は毎回午後2時開始で、約1時間30分の講演、会場は御坊市民文化会館、椅子900席うち車椅子6席、立ち見100席で、約1,000人収容可能の施設です。土曜日に開催されています。第1回は6月22日、スポーツジャーナリスト増田明美先生、第2回は華道家の假屋崎省吾先生、第3回は落語家の林家木久蔵先生、第4回は前高知県知事の橋本大二郎先生、第5回は作家の荒俣宏先生、第6回は津軽三味線演奏家の踊正太郎先生です。最終日は来年の2月29日の予定で、毎回6名の講師を呼び、各月か講師の都合に合う日程と講演テーマを決めています。チケット代金は、6回通し券3,000円で販売しています。そうした講師陣を取り仕切っている派遣会社が大阪にあり、事前に名前と講演料が把握できる一覧表があるようです。毎年予算に見合う人たちを人選しています。一般質問した当時は、有田市民会館が完成し、8月から一般開放される時期で、ぜひ有田市民も有田市における文化的なさらなるレベル向上を目指せると確信したから、平成30年度から実施してほしいと提言しました。

その提言に対しては、自主事業実行委員会を立ち上げ、幅広い意見を聞きながら、市民教養講座のみならず、クラシックコンサートや映画、演劇、ミュージカルなど、幅広い分野から自主事業を選定していく、本市の文化振興を図る上で市民会館の活用、とりわけ自主事業の取り組みは大変重要で、かつ継続していることも大切でありますので、ふるさ

と応援寄付金や文化振興基金の活用なども含め、予算面で検討していくとの当局から前向きな答弁をいただきました。あれから2年6カ月経過しました。いつ実施していただけるかと心待ちにしていますが、残念ながら平成30年度、令和元年度には実施されませんでした。この間の検討された内容について詳細に知りたいのと、今後の予定はどうなっていますか、答弁をお願いいたします。

次に、3点目の有田市立中学校統合新校舎建設予定地について質問します。

有田市立の4中学校、初島、箕島、保田、文成が統合され、令和6年4月、現箕島中学校敷地に新たな学校が開校予定です。統合スケジュールでは、令和元年度に校名選定、令和元年度から令和3年度までに制服、体操服、靴、カバン等の決定、令和2年度には校舎建設の設計が予定されています。つきましては、新校舎建設予定地である現箕島中学校敷地について、気になることとして、借地問題と洪水浸水地域であることの2点あり質問をします。

まず、1項目めの借地対策についてですが、現状、現在の箕島中学校全体の面積と、そのうち借地面積がどれだけあって何%を占めているのか、また、借地の地権者が何人なのかと1年間の借地料合計金額は幾らなのかと、今後どのように解決されるのか答弁願います。

続いて、2項目めの洪水浸水対策についてですが、最近見直された有田川新洪水浸水想定区域（全容と箕島中学校の浸水深さ）について教えてください。

以上で、壇上よりの質問を終わります。

○議長（生駒三雄君） 脇村建設課長。

○建設課長（脇村哲弘君） 御質問1点目の箕川護岸崩壊対策について御答弁申し上げます。

議員仰せのとおり、箕川護岸改修につきましては、平成28年度に管理者である和歌山県が改修計画を完了しております。現在は河川パトロールにより、護岸の状況を注視し、必要に応じ緊急性の高いところから修繕を実施すると聞いており、近年数年間は、緊急性は低いと判断されていると思いますが、改修計画を完了した平成28年以降老朽化も進んでいることから、今後も引き続き護岸改修を県に対し強く要望してまいる所存でございます。

また、農作業で使用されている場所は、有田川土地改良区の所有地で、管理部分でございますので、有田川土地改良区に対しても適切な管理をあわせて要望してまいります。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 岩田市民会館館長。

○市民会館館長（岩田吉広君） 2点目の新市民会館活用について、御坊市が実施している市民教養講座を開催してはについて御答弁申し上げます。

議員が平成29年6月議会で提言された御坊市民会館の市民教養講座などの例を参考に、有田市民会館の自主事業においては、社会教育委員や文化協会の会員などから構成されている自主事業実行委員会できざまな事業が検討され、ふるさと応援寄付金、文化振興基金を財源に実施してまいりました。

その中で、市民教養講座に類する講演会としましては、平成30年度においては、13回の自主事業のうち、俳優の杉良太郎氏、漫才師の宮川花子氏、アナウンサーの山本浩之氏の

講演会、あわせて3回を実施し、令和元年度においては13回の自主事業中、映画「ぼけますから」の監督信友直子氏、タレントの西川ヘレン氏の講演会2回を実施しました。今後自主事業実施時に行っているアンケートの結果や他市の動向などを参考にしながら、講演会、クラシックなどのコンサート、演劇、映画上映、また子供向けの行事など、さまざまな分野での文化事業を実施し、市民の教養、文化の向上に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 伊藤教育総務課長。

○教育総務課長（伊藤正人君） 3点目、有田市立中学校統合新校舎建設予定地について、1項目め借地対策について御答弁申し上げます。

新統合中学校建設を予定しております現在の箕島中学校敷地面積は2万5,400平方メートルで、借地面積は1万6,941.91平方メートル、借地割合は約66.7%です。借地の地権者は共有名義を含めて11名で、年間の借地料は2,260万7,782円となっております。現在、大口の地権者を中心に用地交渉をしております。土地の価格は年々下落しており、交渉はスムーズに進んでおりませんが、今後も粘り強く買い上げができるよう交渉を続けてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 上田防災安全課長。

○防災安全課長（上田敏寛君） 2項目めの洪水浸水対策について御答弁申し上げます。

本年2月和歌山県から発表されました有田川の洪水浸水想定について、御説明します。今回の洪水浸水想定は、想定し得る最大規模の降雨、いわゆる想定最大規模降雨、千年に1回程度起こる豪雨を想定し作成されたものです。有田川における想定最大規模降雨は、金屋基準点上流域に24時間で約800ミリの降雨量が想定されています。これをもとにした本市の洪水浸水想定は、降雨規模の増大により浸水が想定される区域がこれまでの想定より拡大し、浸水の深さが増加しています。平野部はほとんど浸水域になり、最大で5メートル以上10メートル未満の浸水が想定されています。箕島中学校の浸水の深さも最大で5メートル90センチになると想定されています。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 9番中谷桂三君。

〔9番 中谷桂三君 登壇〕

○9番（中谷桂三君） まず1点目の箕川護岸崩壊対策についての現状と今後については、「護岸改修は平成28年度に管理者である和歌山県が改修計画を完了している、その後は必要に応じて緊急性の高いところを修繕する計画だが、この数年間は緊急性が低いと判断、今後も引き続き、護岸改修を県に対して強く要望していく」とのこと。また「農作業で使用する場所は、有田川土地改良区の管理部門であり、適切な管理をあわせて要望していく」との答弁をいただきました。壇上でも述べたとおりに、箕川沿いの水田を管理している者にとっては、護岸崩壊により、歩行中箕川に落下するという日々危険な状況の中作業をしていることを肝に銘じ、当局は関係先にこうした実態を詳細に説明し、早急に対応していただくことを強く要望して、箕川護岸崩壊対策については了承いたしました。

続いて2点目の、市民会館活用については、私が提言した御坊市が実施している市民教養講座を開催してはについて、「自主事業実行委員会ですまざまな事業が検討され実施してきた。その中で市民教養講座に類する講演会を平成30年度では3回、令和元年度では2回実施した。今後も自主事業実施時に行っているアンケート結果や他市の動向を参考にしながら、いろんな分野での文化事業を実施し、市民の教養、文化の向上に努めていきたい」と答弁をいただきました。私が提言した趣旨を御理解していただいた上、自主事業実行委員会には、私の一般質問した内容を報告していただき、来年度の事業の中に繰り入れられないのかの検討を、ぜひしていただきたいのです。このことについての答弁をお願いします。

○議長（生駒三雄君） 岩田市民会館館長。

○市民会館館長（岩田吉広君） 議員提言の市民教養講座についての一般質問の内容を自主事業実行委員会に報告し、来年度の事業の中に取り入れられないかについて御答弁申し上げます。

今回の一般質問の内容を自主事業実行委員会報告するとともに、アンケート結果やさまざまな御意見を取り入れ、よりよい事業としてまいります。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 9番中谷桂三君。

〔9番 中谷桂三君 登壇〕

○9番（中谷桂三君） ただいま今回の一般質問した内容について自主事業実行委員会に報告するとともに、アンケート結果やさまざまに意見を取り入れ、よりよい事業にしていくとの答弁をいただき、御坊市が実施している市民教養講座が有田市で令和2年度から開催されることを願いつつ、市民会館活用については了承いたします。

次に、3点目の有田市立中学校統合新校舎建設予定地の1項目め、借地対策は、敷地面積、借地面積、借地割合、借地の地権者人数、年間の借地料と今後の予定を、2項目めの洪水浸水対策については、平野部ではほとんど浸水域になり、最大で5メートル以上10メートル未満の浸水が想定されている。なお、箕島中学校の浸水深さは最大で5メートル90センチになると想定されているとの答弁をいただきました。

借地割合が約66.7%とかなり多いのと、年間借地料の2,260万7,782円も支払い続けなければならないこと、浸水をクリアできる校舎を建てられるのか等を考えると、有田市立中学校4校統合新校舎建設予定地として、箕島中学校に決定された要因はどう考えても理解できません。今さら、新校舎建設予定地を変更しろとはいえませんが、そうした問題点の中で、私が一番危惧しているのは新校舎の洪水浸水対策です。具体的にどのような対策をされるのか教えてください。

○議長（生駒三雄君） 伊藤教育総務課長。

○教育総務課長（伊藤正人君） 御答弁申し上げます。

今回の洪水浸水想定は、千年に一度、最大で考えられる規模ということで、目の前の堤防が決壊したときを考えた被害を想定したものになっております。建物については、洪水被害にも耐え得る強靱な校舎、体育館を建設します。また、子供たちの安全確保という観点からは、洪水浸水想定のような被害となるのは、大雨が降って川が氾濫した場合です。

その前には、必ず大雨洪水警報などの警報が発令されており、そのような警報発令時には、子供たちは原則学校には登校しておりません。万が一、学校に子供がいれば、校舎の3階以上に垂直避難して、安全の確保をするようにします。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 9番中谷桂三君。

〔9番 中谷桂三君 登壇〕

○9番（中谷桂三君） ただいま新校舎の洪水浸水対策について、「建物は洪水被害にも耐え得る強靱なものを建設する、子供たちの安全確保という観点から事前に発令される警報で、原則学校には登校していない。万が一、学校に子供がいれば校舎の3階以上に垂直避難をして安全を確保する」と答弁をいただきました。

去る11月12日に博多で開催されました地方議員研究会主催の宮本正一医学博士講師による議員20年の経験から語る基礎講座、我が国が直面する学校統廃合特別講座に同志である会派市民クラブの宇野議員と出席しました。

講演中の項目で、地元の学校がなくなる、そのときの議員としてのかかわり方について興味がありました。かつての福島原発の重大事故を、ある日本共産党議員が予想していたことのあった話や、学校統廃合を決定することは、その決定にかかわった人たち、準備委員会、行政、議員等は将来まで責任があると言われ、我が有田市では、新校舎建設予定地の借地割合が約66.7%、年間の借地料が2,260万7,782円かかり、洪水浸水地区に指定されていることを考えると、今進められている有田市立中学校統合計画を支持すべきか本当に不安に感じました。もちろん、同じく講座をお聞きした宇野議員も同じ考えでした。そして、講師先生に我が有田市の実態を話し相談すると、即刻中止すべきだと指導されました。

こうしたこともあり、有田市立中学校統合計画については、問題点を明確にして、対策等を慎重に検討し進めなければならないと確信しました。そのため、来年には、新校舎建設の設計業務に入る前に、今回一般質問で借地対策等、洪水浸水対策をお聞きしました。答弁内容は、借地対策について、買い上げ交渉を引き続き継続する、洪水浸水対策については大丈夫とのことですが、本当にそうでしょうか。

また、皆さんも御存知のとおり、ことしの10月に台風19号の襲来により、東日本の各地で記録的な大雨が降って、河川氾濫や土砂災害が起き、多くの命が失われました。例えば、建物建設時はより強靱なものとなれば余計なお金を投入しなければなりません。我が有田市では、昭和26年7月18日の「7・18水害」を経験しています。そうした中で、まちの中心部に住宅や公共施設などを集約するコンパクトシティを目指した居住誘導区域の浸水被害が台風19号被災地のうち、少なくとも7県の14市町で起きていたことがわかっています。

我が有田市では、望月市長になってからコンパクトシティを目指し、市役所周辺に消防本部、市民会館が建設されました。その上、今回の有田市立中学校統合で箕島中学校に新校舎建設を予定しています。消防本部、市民会館の建物は既に建設されているため仕方がないとしても、今後新たに建設する新校舎建設は、箕島中学校の浸水深さを最大で5メートル90センチになると想定されていることを考えると、私は有田市議会議員として箕島中学校に新校舎を建設することは反対です。

なぜならば、当局の答弁では、子供たちの安全は保障されているとのことですが、建設にかかわる建物費用として、国や和歌山県の補助金は出ますが、不足する数億円単位の有田市民の税金が投入されるからです。箕島中学校以外での建設はあり得ないのかと、また、「学校に子供がいれば校舎の3階以上に垂直避難する」と答弁いただきました。そのときは、屋上にヘリポートが必要となりますが、校舎の屋上にヘリポート設置を予定しているのか、望月市長に答弁をお願いいたします。

○議長（生駒三雄君） 望月市長。

○市長（望月良男君） お答えいたします。

まさに今回見直されました千年に一度規模の洪水浸水想定、これらに対する備えというのは確かに重要で必要ですので、災害時にも対応し得る校舎、体育館を建設し、またそうした意識づけも徹底して備えていかなければなりません。

また、一方で子供たちには豊かで快適な中学校生活を送ってほしいとも考えております。毎日を考えますと、JR箕島駅を利用するの利便性や市民会館、図書館など、公共施設の近くにあるということ、箕島中学校の敷地に建設してまいりたいというふうに思っております。

議員御提言のヘリポートにつきましては、今後、設計を進めていこうとする過程の中で、その使用目的など有益性とコスト面など総合的に検討していかなければならないというふうに考えています。

以上です。

○議長（生駒三雄君） 9番中谷桂三君。

〔9番 中谷桂三君 登壇〕

○9番（中谷桂三君） ただいま望月市長からJR箕島駅の利便性や市民会館、図書館などの公共施設の近くにあるとのことで、「箕島中学校に新校舎を建設する。ヘリポート設置は検討する。」との答弁をいただきました。このままだと平行線のままなんで解決しそうにありませんので、残念ですが、これで終わりますが、再度述べます。私は先ほども述べたとおり、借地割合が約66.7%、年間の借地料が2,260万7,782円かかり、洪水浸水地区に指定されていることを考えると、数億円単位の有田市民の税金が投入される箕島中学校での新校舎建設には反対です。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（生駒三雄君） これにて、9番中谷桂三君の一般質問は終わりました。

一般質問の途中ですが、この際、午後1時まで休憩いたします。

午前11時49分 休憩

午後1時00分 再開

○議長（生駒三雄君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を継続いたします。

2番上野山善久君。

〔2番 上野山善久君 登壇〕

○2番（上野山善久君） 議長のお許しをいただきましたので通告順に従い、一般質問を

させていただきます。

脚走になり、本市では、今まさにミカンの収穫、出荷が最盛期を迎え、まち全体が活気にあふれております。本市の地形は、御存知のとおり中央に有田川が流れ、両岸には山並みが連なっております。その傾斜を利用したミカン畑は、この地域の誇るべき先人からの知恵の結晶でございます。

先日、知人のミカン農家にお話しを伺う機会がございました。ことしのミカンは開花期が遅く、夏場の降雨や高温など、また昨年の台風21号を初めとする自然災害の影響も重なり、例年と比較しても全体的に糖度が低く、味に大きな影響を及ぼしている。また、中手、奥手になるほど、収穫量も少ないとのことでした。

地球温暖化など、自然環境に大きく影響を受けるのは農作物としては仕方のないところではございますが、話の中で、イノシシの被害が年々増加していることも伺いました。イノシシによる被害は、ミカンへの食害、枝折れといったものや石積みをこわすそういった施設にも影響は及んでおります。せっかく一生懸命手塩にかけて育てたミカンや先代から受け継いだミカン畑がイノシシによって被害を受けることは、農家にとって到底我慢できるものではございません。また、農作物等の被害においても、京都府や北海道などでは、まち中にイノシシやクマが出没したことは連日のように報道されておりました。

今月8日には、有田川町でクマに襲われ、住民が全治1週間のけがを負った事案が発生したという報道もなされております。本市でもイノシシの野生鳥獣による人的被害が発生しないように努めなければなりません。

そこで質問いたします。有田市のイノシシの被害状況と現状の対策について、また今後の対策についてのお考えをお聞かせください。

続きまして2点目、防犯カメラを含めた防犯対策についてであります。最近の犯罪における犯人逮捕に重大な効力を発揮している防犯カメラですが、有田市における設置状況については、まだまだ十分な環境になっていないと考えております。特に中学校、小学校、保育所等の施設には、犯罪の抑止力という観点からも設置が望ましいと考えますが、考え方をお聞かせください。

また、中学校統合時における通学路においては、学生本人はもとより、御父兄の方々も大変心配されているところでございます。防犯対策も含めた環境整備の考え方をお聞かせください。

以上、よろしく願いいたします。

○議長（生駒三雄君） 大浦有田みかん課長。

○有田みかん課長（大浦秀和君） 失礼します。1点目、イノシシに関する被害状況と現状の対策について御答弁申し上げます。

イノシシによる本市の作物の被害額につきましては、昨年度181万6,000円でございます。現状の対策といたしましては、イノシシによる食害等に起因する農作物被害を減らすため、有害鳥獣捕獲や防護柵の設置に関して補助事業の推進を行っているところでございます。有害鳥獣捕獲につきましては、有田市猟友会が、本年11月末現在138頭のイノシシを駆除したとの報告を受けております。また、防護柵の設置に関しては、これまでも補助を行っておりますが、本年度も35団体1万8,392メートルに対して補助を行う予定でございます。

次に、民家近隣にイノシシ等が出没した際の対応でございますが、鳥獣保護管理法の規制により、民家周辺で銃器が発砲できないなど、対応に苦慮しているところでございますが、市と猟友会、有田警察署が連携し、出没地周辺の見回りを行い、状況を把握し、適切な場所に箱わなを設置するなどの対応をしているところでございます。

続きまして、今後の対策について御答弁申し上げます。

今後の対策といたしましては、引き続き農作物を守るため、有田市猟友会による有害鳥獣捕獲と市からの防護柵の設置支援を推進していくよう、要望や出没件数等を踏まえ、適切に対処できるよう予算措置を講じてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 上田防災安全課長。

○防災安全課長（上田敏寛君） 2点目、防犯カメラの設置について御答弁申し上げます。

まず、1項目めの市の設置状況ですが、公共施設内の防犯カメラは保育所1カ所で4台、中学校10校で44台を含め、19カ所91台を設置しています。道路などまち中に設置しているものは、箕島、初島地区で10台設置しています。また、市以外で設置した防犯カメラは、宮原新町商店会が宮原駅周辺から宮原小学校付近までの商店街沿いに18台、箕島駅前商店会が駅前通りに4台設置しているところでございます。

○議長（生駒三雄君） 伊藤教育総務課長。

○教育総務課長（伊藤正人君） 続きまして、市内の小中学校への防犯カメラ設置についての考え方につきまして御答弁申し上げます。

防犯カメラ設置については、校内への無断侵入など、防犯対策として、学校と協議しながら設置を進めてきております。未設置校である初島中学校にも今年度中に設置をする予定です。今後も学校と協議し、必要な箇所に設置をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 松村福祉課長。

○福祉課長（松村尚彦君） 続きまして、市内保育所への防犯カメラ設置についての考え方について御答弁申し上げます。

議員おっしゃるとおり、防犯カメラの設置は犯罪の抑止力効果があると認識しておりますので、子供の安全確保を行うためにも未設置の保育所におきましては、令和2年度での設置に向けて予算化の協議を進めております。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 上田防災安全課長。

○防災安全課長（上田敏寛君） 続きまして、まち中への防犯カメラの設置についても市民の安全を守る防犯上の観点から必要と考え、設置に取り組んできております。一方、撮影される個人のプライバシーを侵害することがないように留意し、十二分に配慮しながら対処してきたところでございます。今後も、有田警察署と協議、連携しながら、防犯上特に必要と思われる場所があれば、防犯カメラ設置に取り組んでいきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 伊藤教育総務課長。

○教育総務課長（伊藤正人君） 続きまして、2項目め、中学校統合時における通学路整

備に含めた防犯対策に対する考え方について御答弁申し上げます。

中学校統合につきましては、今年度から統合準備委員会を設立し、さまざまな事項を協議し、令和6年4月の新中学校開校に向け準備を進めてきております。通学路につきましては、準備委員会の地域PTA部会において協議しており、現在主要な通学路の選定と危険箇所の確認をしているところです。教育委員会といたしましても、通学路の安全確保は何より大事なものであると考えておりまして、国や県などの関係機関、市の関係部署と十分協議しながら、主要な通学路につきましては、統合までに子供たちが安全に通学できるよう取り組みを進めてまいります。

また、子供たちが安全に、また安心して学校に通うためには、防犯面での対策も必要です。通学路への防犯カメラ設置につきましては、子供たちの安全を守る対策として有効と考えます。

一方で、個人情報保護の観点から、十分な配慮や設置場所を管轄する関係機関等との協議が必要となります。現在は、市の防犯担当である防災安全課において、有田警察署と協議連携しながらカメラ設置を進めておりますので、教育委員会といたしましても、子供たちが安全・安心に通学できるよう、今後も関係機関や関係部署と連携していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 2番上野山善久君。

〔2番 上野山善久君 登壇〕

○2番（上野山善久君） 御答弁いただいた1点目、イノシシの被害状況と現状の対策、今後の考え方については、市の取り組みなど理解いたしました。中でも、イノシシの有害鳥獣捕獲に有田市猟友会の皆様に大変御尽力いただいていることはよくわかりました。今後も農作物被害を減少させるため、イノシシの有害鳥獣捕獲を適切に行っていただくためにも、猟友会の会員を増加するなど、市の積極的にバックアップするようよろしくお願い申し上げます。

また、防護柵などの設置に関しては、さらなる推進や民家周辺にイノシシが出没した際には、地域住民への安全を徹底するよう、関係機関と連携を密にし、迅速に対応していただくよう強く要望いたします。イノシシの被害状況と現状の対策、今後の対策については十分配慮いただけるとの認識で了解いたしました。

2点目の防犯カメラを含めた、防犯体制についても、学校等への防犯カメラの設置については、可能な限り迅速な対応をお願いいたします。また、中学校統合時期における通学路の防犯体制については、十分な対策を講じることを強く申し上げます。

今回、質問させていただきまして2点については、ここがスタートと考えております。これから計画、実行また見直し等々の内容に関しても注視してまいりますので、何とぞ十分な配慮よろしくお願い申し上げます。

これをもちまして、私の一般質問を終了いたします。

○議長（生駒三雄君） これにて、2番上野山善久君の一般質問は終わりました。

次に、14番西口正助君。

〔14番 西口正助君 登壇〕

○14番（西口正助君）では、通告順に従いまして一般質問を行います。令和2年度予算編成についてお尋ねいたします。

10月25日付で市長から各所属長宛てに、令和2年度予算編成方針が示されております。私は常々、予算は行政の顔と姿であり、決算は行政の成績であると考えております。望月有田市長が何を考え、令和2年度にどのような政治施策を目指していくのか、それがあらわれるのが予算であると思っております。

したがって、予算を考える上で、指針となる予算編成方針は、市長が各所属長に向け発表するものであるが、私は市議会議員としてその内容が市民の負託に応えるにふさわしいものであるか、注意していく必要があると考えております。

私は、予算編成の基本的な考え方として、第一に市民ニーズを的確に把握し施策に反映すること、2点目として国の予算編成に基づく補助金等の財源の見通しや、国の施策との関連を考慮すること、そして第3としては、予算が財政収支の見積もりであり、財源には限りがあることから効果的継続的に市民サービスを提供していくために、最小の経費で最大の効果を上げるとともに、中長期的な見通しをもって財政基盤を保持し、健全な財政運用に努める必要があると考えています。

また、予算は、その年度1年間の市政の方向性を決める重要なものであり、市民が収めた税金がどのように使われ、どのような効果が市民に還元されるのかを示す重要な判断資料でもあると思います。

そして、行政の成績である決算においては、事業の取り組み結果を評価し、説明責任を果たすとともに、次の年度以降の予算に適切に反映することが必要であると考えております。したがって、予算編成に当たっては、市政のトップである市長のリーダーシップのもと、全職員が創意工夫し、全力で取り組み、市民の負託に応えかつ、入りを量りて出づるを制すごとく健全な財政運営を目指していただきたい。そこで、2点ばかりお尋ねいたします。

令和2年度、市政運営の基本的な考え方について。2点目、令和2年度の予算編成の基本方針について、それぞれ各担当部署に指示した内容について答弁を求めます。

次に2点目、有田市立病院の経営についてお尋ねいたします。

第1項目めとして、和歌山県地域医療構想についてお尋ねいたします。和歌山県地域医療構想については、平成28年5月に策定され、構想区域において協議の場、いわゆる調整会議が行われ、地域医療構想を推進するために地域で必要とする病床機能の調整や、病床数について、行政民間病院、公立・公的病院等が協議を行っていると思いますが、現在、有田医療圏の構想区域は、どのような協議が行われているのか、具体的な病床数を削減について協議が行われているのかお聞かせ願いたいというのも、ことし9月に厚生労働省が全国の公立・公的病院の25%超えるに当たる424病院について、再編、統合について特に議論が必要であると病院名を公表いたしました。がんや救急など、高度な医療の診療実績が少ない病院や、近隣に機能を代替できる民間病院がある公立・公的病院について、地域医療構想の調整会議において、再編、統合の協議が特に必要と位置づけをいたしました。有田市立病院は、公表はされてはおりませんが、私から見ても、非常に厳しい状況ではないかと思っております。これまでの地域医療構想調整会議で病床機能や病床数について、有田市立病院としてどう考えているのか、どうしていきたいのか、どのような方向性を示している

のかお聞かせいただきたいと思います。

次に2項目め、有田市立病院改革プランについてお尋ねいたします。現行の有田市立病院改革プラン、平成28年度から令和2年度までの5年計画で進捗状況はどうなっているのか、経営の改革改善はできているのか、有田市立病院改革プラン、私はこれについても何回か質問、提言を行ってきたが、計画策定の平成28年度は1億6,000万円の赤字、平成29年度は約2億円の赤字と悪化し、平成30年度には何とか約700万円の赤字にとどめ、改善となったものの、先日令和元年度の経営状況の中間報告では非常に大きな赤字となる見込みとのこと、私は幾度となく提言をし、病院経営は生き物だと一般会計と公益企業会計との違いをしつこいぐらいに言ってきた。私の今までの提言を全く生かしていない。

去年700万円まで回復し、今までの成果がやっと出てきたと思っていたのに、なぜことしこんな大きな赤字になるのか、改革プランは経営基盤を安定させるためのものではなかったのですか。国が作成をしろというので策定をただけなのですか。有田市立病院の改革プランの進捗状況をお聞かせ願いたいと思います。

次に3点目の愛宕川端線（通称南北道路）についてお伺いいたします。

この道路は、今から約60年前の昭和34年1月8日に建設省告示により、都市計画決定された都市計画道路となっています。愛宕川端線（通称南北道路）は、有田市の中心市街地である箕島地区において、望月港線と国道480号を南北につなぐ重要な道路であり、この路線の事業着手は箕島地区にとって長年の課題であり、また念願事項でもあります。

今まででも地元自治会等を初め、関係団体あるいは議会の一般質問等で何回も要望があったと思いますが、私もこの道路は、防災、減災の観点からもなくてはならない重要な道路であると考えています。災害時や救急どきに救急車や消防自動車も入れない、地域の方々におかれましては、もしも火事等事故があった場合、密集地により逃げ場もなく、大変日々不安な日を過ごしております。

このような状況、市も真剣に考え、また他人事と思うことなく、その地に住んでいる住民の方々の気持ちを重く受けとめ、早期に事業化に着手していただきたい。愛宕川端線（通称南北道路）については、都市計画決定より60年、いまだに事業化されずに現在に至っているが、最近、動き出そうとしている。そうしたことから、私の耳にもさまざまな声が聞こえてきます。愛宕川端線（通称南北道路）の事業化計画、一体どのような状況であり、どのように進んでいるのか、また今後どのように進めていくのか、市の考え方を聞かせ願いたい。

以上で、私の壇上よりの質問を終わります。

○議長（生駒三雄君） 大松経営企画課長。

○経営企画課長（大松満至君） 令和2年度予算編成について御答弁申し上げます。

まず1項目めの令和2年度市政運営の基本的な考え方といたしましては、まちの魅力と活力を生み出す投資と持続可能な自治体経営の投資という2つの投資を市政運営の基本と捉え、意識の共有を行ったところでございます。これは、BIG SMILEプロジェクトや活気あふれる箕島漁港プロジェクト、そして中学校の統合など大型事業を未来に向けた投資として重点施策に位置づけ、市政運営を進めているところでありまして、令和2年度予算については、必要な財源を確保しながらまちの魅力と活力を生み出す投資、す

なわちイノベーションを起こす投資と持続可能な自治体経営の投資、すなわち合理化につながる投資に積極的に取り組む予算を編成することとされており、この2つの投資が各セクションにおいて、それぞれ何に当たるのかをいま一度議論、熟考し、予算編成に取り組むことと指示されております。

次に、2項目めの令和2年度予算編成の基本方針では、ただいま申し上げました市政運営の基本的な考え方を踏まえまして、まちの魅力と活力を生み出す投資と持続可能な自治体経営の投資につながる事業について、時期を逸することなく、積極的に取り組むよう指示があり、指針となる16項目の重点施策を示しているところでございます。

また、これにあわせまして、各政策事業につきましては、限られた財源の中で実施効果を検証した上で推進していくことと、経常経費については削減に取り組むこと、過去の予算や決算における市議会からの御指摘をいただいている事項など、課題に対する改善策を講じること、積算根拠を明確にして予算要求をすることなどを指示し、予算編成方針に基づいた予算となるよう、方針の徹底を図ってきたところでございます。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 神保病院事務長。

○病院事務長（神保佳紀君） 2点目の有田市立病院の経営について御答弁申し上げます。

1項目め、和歌山県地域医療構想についてでございますが、県が策定している地域医療構想に基づき、有田保健医療圏構想区域においても定期的に調整会議が開催されています。これまで医療機能や病床数についての協議が行われ、現在急性期の必要病床数146床に対し212床、回復期の必要病床数148床に対し211床、慢性期の必要病床数201床に対し204床となっており、医療機能の転換が行われておりますが、病床数の削減は行われておらず、有田保健医療圏全体の2025年の必要病床数495床に対し201床まだ過剰となっております。どこの病院においても、病床数の削減は経営に及ぼす影響は非常に大きいことから、今のところ自主的に削減するという病院はございません。

また、厚生労働省は、公立・公的病院の再編、統合について協議は特に必要と病院名を発表したことから、今よりも踏み込んだ協議が行われていくものと考えております。当院におきましては、県地域医療構想に基づき、急性期をいち早く削減し、現在急性期54床、回復期99床へと転換をしてきております。方向性としましては、急性期、回復期、在宅医療、予防医療を柱に救急告示病院、災害拠点病院、周産期小児医療、認知症疾患医療センターとしての機能を充実させることとしており、病床数につきましては、今後の人口減少や医療需要の推移を踏まえ、ダウンサイジングの協議を行っていきたいと考えております。

また現在、県当局とも有田保健医療圏唯一の公立病院、中核病院として、圏域の地域医療のあり方、当院が担う医療の提供についても協議を行っており、県との連携を強化しながら圏域を視野に医療提供体制を構築していきたいと考えています。

次に2項目めの市立病院改革プランの進捗状況でございますが、目標達成に向け取り組みを進めてきておりますが、まだまだ未達の項目も多いことから、経営が改善されておらず、赤字経営が続いているという状況でございます。

昨年度は約725万円の赤字まで改善することができましたが、今年度11月までの収益見込みでは、予算目標に対し約1億8,600万円不足しているという状況で、残り4カ月何とか赤

字額を抑えるべく取り組みを進めております。

医師の減少などさまざまな要因がありますが、まだまだ安定した経営改革には至っていないというのが現状でございます。令和2年度までの改革プランとなっておりますが、各数値目標達成に向けて、全職員共通認識のもと取り組んでまいりたいと考えています。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 脇村建設課長。

○建設課長（脇村哲弘君） 御質問3点目の愛宕川端線（通称南北道路）の進捗状況について御答弁申し上げます。

愛宕川端線（通称南北道路）は、昭和34年に市道5号線、望月港線と国道480号線を南北に結ぶ道路として延長340メートル、幅員11メートルで計画された都市計画道路でございます。本路線につきましては、以前より元市議会議員の田中氏や万賀氏からも一般質問等で強く要望されており、地元自治会、箕島地区再開発推進協議会からも早期事業化が望まれている中、長年にわたり事業化されていみせんでしたが、議員仰せのとおり愛宕川端線につきましては、防災、減災の観点からなくてはならない道路であると市も認識しており、今回事業を実施していく前段として、平成29年度に近年の道路事情や全国的な道路行政の見直し、人口減少などの社会情勢を踏まえ、昭和34年当時の計画から線形や交差点形状等の見直し、また幅員11メートルから約9メートルに変更し、本年1月28日に商工会議所において、箕島地区再開発推進協議会への説明を行い、去る令和元年10月18日には、箕島地区連合自治会を初め、地元自治会及び近隣住民約50名に対して計画変更も含め、地元説明会を開催いたしました。現在は、早期事業着手に向け、都市計画の変更及び事業認可の取得に係る業務を進めているところでございます。今後につきましては、事業の認可がおり次第、道路詳細設計を発注し、来年度から用地測量、物件保障調査を実施予定でございます。事業実施に伴い、地元自治会を初め、関係団体等と協議し、また御協力をいただきながら慎重に地元喜んでいただけるよう事業を進めていきたいと考えておりますので、議員におかれましても御助言、御協力をよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○議長（生駒三雄君） 14番西口正助君。

〔14番 西口正助君 登壇〕

○14番（西口正助君） 令和2年度予算編成方針について、大松課長のほうから答弁いただきました。先ほど壇上でも申し上げましたけども、ここに令和元年10月25日付、市長が予算編成方針について、また要領についてと2つ出されております。先ほどの予算の編成方針については、もう一度確認の意味で市長が示された中で二、三確認だけをしていきたいと思っております。

令和2年度の運営の基本的な考え方、まちの魅力と活力を生み出す投資と持続可能な自治体経営への投資と、この2つを重点施策とし、市政の運営を進めていきたいと、そうしたことから、令和2年度予算については、先ほど言いましたようにまちの魅力と活力を生み出す投資と持続可能な自治体経営の投資に積極的に取り組む予算編成とする、ここが大事なところやで、この2つの投資が各セクションそれぞれにおいて何に当たるのか、いま一度議論熟考し、予算編成作業に取り組まれないと記されております。

また、編成の基本方針の中で、これら今申し上げた2つのことを進める上でも市政運営の基本的な考え方を踏まえ、重点施策について事業の発展、充実を図るなど、これも今この場におられる方々には十分認識をしていただきたいと思いますのでありますが、所属長の権限と責任のもと、マネジメント機能を発揮し、主体的かつ積極的な予算作業に取り組むこと。

また、予算要求に当たっての留意点では、新規事業の要求は、新規事業提案書を作成し、事業内容のわかる資料を提出すると。また、積算根拠が不透明な不明確ないわゆる枠どりの要求は認めない。明確な積算根拠や計画資料等を提出することと記され、また予算編成に当たっての基本的な考え方としては、各施策、各事業については進捗状況をしっかりと見極め、限られた財源の中で実施効果を検証した上で推進をしていくこと。

また、先ほども言いましたけども、新規事業を要求する場合は、既存事業の廃止、見直し、選択と集中を行い、限られた財源を最大有効に活用できるよう努める。各事業の目的及び成果を明確にし、目標値を設定した上で要求書を策定すること。また、過去の予算編成や決算審査、監査委員、議会等における課題事項への対応を行い、改善施策等を講じること。そして、部単位で事業内容を自己査定し、事業の優先順位をつけて明確にする。事業や事務量の抑制を図るため、同様の事業であっても事業内容を徹底的に見極め、積算根拠を明確にして予算要求をすること。そして、必要性、行政が担う必要があるのか、法律性、導入された全ての行政財源に見合う成果が認められるのか、有効性、期待される効果を最大限にできるのか、選択が十分やれているのか、十分考え、コスト意識を持って新規事業の検討や既存事業の改善に努めること。

また、安易に一般財源に依存することなく、国、県等の交付金、補助金及び交付措置にもあるような起債を活用した財源確保に努める。次に公営企業、他会計の繰り出しについては、安易に一般会計からの財源補填を求めることなく、受益と負担の適正化、自主財源の確保、事務費の削減や合理化に努め、必要最小限の予算要求とすると。

また、公営企業にあっては、独立採算制を前提とした経営の一層の効率化を積極的に推進し、長期的な収支見通しに立った経営の健全化に努めると、一般会計からの繰り入れについては、繰り入れ基準を厳格に順守し、積算根拠を明確にすること。また、基準以内とすることはもとより、可能な限り圧縮するように努めるということで、細部にわたり細かくここにあるように市長から各担当部課長宛てに出している。

私はなぜ今回、この予算取り組んだかと言いますと、やはり、先ほども壇上で言わせてもろうたように、やっぱり限られた財源を有効に活用し、市民の税金、いかに効率的にやっていくかというのが予算の究極やと。そしてこの答申方向についても、市長が各所属長宛てに通知している。この今申し上げたあれが、議会、委員会等で議員が質問、質疑したとき、やっぱり明確に答えられるような体制をつくっていただきたい。そうすることによって、議会、委員会もスムーズに運営できるもんだと思います。これだけは、一つ徹底していただきたいと思います。そうしないと、この件については、3月に予算が編成され、提示されると思いますが、今申し上げたことについて、この壇上でもしも質問、また質疑をしたときに、徹底していただきたい。そしてまた嶋田部長、大松課長、また査定やっていくと思いますが、そのときにも徹底して、この今申し上げたことに取り組んでいただきたい。そうせんと、市長の言うこともう聞いてないの一個も変わらない。年末に嫌ごと言

うて悪いけども、やっぱり予算というのは来年1年間の市長が目指す施策、方向性を示すものであるので、やっぱり市民の方々のためになる予算にしていきたいと思いますので、ひとつよろしく、この件についてはお願いして終わりたいと思います。

次に、市立病院の経営についてであります。神保事務長から答弁をいただきました。その内容では、医療機能や病床数についての協議が調整会議では行われ、現在急性期の必要病床数146床に対して212床、回復期の必要病床数148床に対して211床、慢性の必要病床数201床に対して204床、ここよ、2025年の有田保健医療圏全体の必要病床数495床、全体で先ほども答弁がありましたように、201床過剰となっていると。これらは調整会議で協議し、この有田圏域の中で協議し、削減していかなければならない。

しかしながら、病床数を削減するという事は、非常に経営に及ぼすことであるから、先ほどの答弁のように自主的に病床数を減らす病院はない、私も全くそのとおりだと思います。

しかしながら、もう医療構想が示されてから何年たつんですか。やっぱり早急に経営に及ぼす根幹的なもの、先ほど壇上でも言うたけども、方向性、経営面を考えたら、やっぱり早急に答えを出して地域医療構想が策定された主旨、また国が新公立病院改革ガイドラインに基づき策定された改革プランの趣旨を踏まえた市立病院の医療提供機能のあり方について、もっともっと真剣に考え、早急に方向性を示さなければなりません。

先ほども言うたように、これらは経営にかかわる根幹であるからです。市民病院の経営状態が今のままでいいわけではない。持続可能な病院経営をしていくには、経営基盤をしっかりとしたものとし、安定した経営を行わなければなりません。毎年毎年、ことしは赤字が幾らで、前年度と比較して何億悪化したとか、ことしはましであったとか、いいですか、経営を改革する改善計画を立てているのであれば、私はその数値に合わせていく、近づけることが経営努力であると思っております。

事務長、病院には医師、看護師、技師、事務方と業種が違うにしても、みんなが経営に関して、共通の意識を持って取り組んでいかなければ、事務方だけが、幾らああである、こうであるこの場で言うても、改善はできない。ここで、ワンチームで取り組んでいただき、経営の改善、改革、安定したものにするために、もう一度、しっかりとふんどしを締め直し、私が言っていたこと、提言したこと、もう一度かみしめ取り組んでいただきたい。

また、病院の方向性やさきの定例会の全員協議会で報告があったが、病院の建てかえについて圏域での地域医療提供体制の協議とともに、具体的な協議を進めていきたいということであったが、私としてはこの経営状況でほんま何を考えているのかと言いたいのでありますけども、しかしながら、大規模な災害がいつ起こるか分からない状況で、災害拠点病院としての機能を維持し強化していく上では、病院の建てかえも必要であるとも考えておりますが、大変難しい問題である。最終的には、政治的な判断をしていかなければならない、市長のお考えをお聞かせ願いたい。

○議長（生駒三雄君） 望月市長。

○市長（望月良男君） お答えいたします。

病院のことで御質問いただきましたけど、先ほどの予算編成ですね、非常に現実的な御指摘をいただいたというふうに思っています。実際の作業はこれから本格化する中で、お

っしゃるとおりでして、方針の出しっ放しでできたらこれであったというふうなことにならないように、なかなか一つのベクトル同じ方向に職員全員が一致団結して市の財力を使ってみたいという理想です。その理想に向かって、しっかりフォローもしていかないと出したは伝わっていないということだったらだめだったので、そこら辺をしっかりとやりなさいという御指摘だというふうに思いますので、覚悟を決めて令和2年度予算、最近では予算規模も10年前とは大きく違いまして膨らんできています。方針どおりの予算が組めるようにしっかりとやっていきたいというふうに思います。

そして今いただきました市立病院の問題です。おっしゃるとおり大変難しい問題です。有田市は過去から箕島病院、有田市立病院ということで、小さな自治体が病院を運営するというのを、ずっとやってきました。

さて、起債の償還が終わろうとしている今、次この有田市の医療というものをどういうふうにするか、有田市が考え、行動を起こしていくか、その待ったなしの状況かなというふうに思います。

先日、医療の連携だったり広域化だったり、そんなところから具体的に始めているということですがけれども、現在、おっしゃられるとおり地域医療構想調整会議でも協議のもとに県との連携を強化しながら、医療のあり方を協議を、これは引き続いて行います。

やはり市立病院は圏域における中核病院として、そして公立病院として特に救急医療、周産期や小児科なども含め、地域医療を担っていかなければならないというふうに考えております。

また、今後20年、30年有田圏域の医療のあり方を考えていく中で、老朽化した現在の市立病院の建てかえも、これも考えなくてはいけないというふうに思います。建てかえを協議していくに当たりまして、高齢社会のニーズ、地域に合った医療ニーズ、健康で安心して暮らしていくための予防医療、人口減少踏まえた病院規模など、今後の社会の変化に対応できる新病院をつくっていかなくてはいけないというふうに考えています。当然万が一に備え、災害拠点病院としての機能を強化していかなければならないことも大切なことです。市立病院建てかえに当たっては、再編、統合の指定管理、広域での経営など、一つ一つ協議を重ねているところでして、今後ビジョンを具体化していきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（生駒三雄君） 14番西口正助君。

〔14番 西口正助君 登壇〕

○14番（西口正助君） 今市長のほうから答弁をいただきました。市立病院のあり方、方向性、病院の建てかえも考えていかなければならないということであるが、一刻も早く収支改善を図り、安定した経営ができるように頑張ってください、いや、一刻も早く収支改善を図り、安定した経営を行っていただきたい。

病院の建てかえに当たっても、市長から答弁がありましたように、再編、統合、指定管理、また広域での経営など、しっかり協議し、市民にとってなくてはならない医療の充実、安心・安全な医療の提供をしていただきたい、これでこの項は終わります。

次に、愛宕川端線（通称南北道路）について、脇村課長のほうから答弁をいただきまし

た。その内容をもう一度確認しておく、今回実施していく前段として、平成26年度に近年の道路事情や全国的な道路行政を見直し、まだ人口減少だの社会情勢を踏まえ、前回の計画から線形や交差点形状等の見直しから、幅員11メートルから9メートルに変更し、本年1月28日、商工会議所において箕島地区再開発推進協議会への説明、また本年10月18日、箕島老人憩いの家において、箕島連合自治会、地元自治会及び近隣住民の方々約50名が参加し、計画変更も含め、説明会を開催、現在は、早期事業着手に向けて都市計画の変更及び事業認可の取得に係る業務を進めている。今後については、事業の認可がおり次第、道路詳細設計を発注し、来年度から用地、測量、物件保障調査を実施していく予定とのこと。これ間違いないですか。ということで、私が先ほど壇上でも申し上げましたように、ここ最近一般質問に多くなった災害のことは、先ほど壇上で言うたようにいろんな声が私の耳にも聞こえてくる。この事業計画、何年も消えてはあられ、消えてはあられ、先ほども壇上で言うたように、昭和34年のときから60年。その間に、やっぱりいろんな方々が陳情に来たり、箕島地区の再開発推進協議会、これは平成20年、愛宕川端線早期事業採択のお願いと事業実施の際には、地権者が協力をするという同意書を添えて、この市役所に出しているようなさまざまな経過がこの何年かの間に起こってきている。何遍も言うてるけど、あられては消え、消えてはまたのこのこと出てきて、いつまでたっても長期的に事業化されずに現在に至っている。今の課長からの説明で、これは確実に計画どおり動かしていただきたい、そしてやっぱり今お願いしている最中で、やっぱり一番気にかかることは、いろんな声が聞こえてくる中で、こないだこんな説明会があったけども、説明会の内容はこんなんできょうこうでほんまにできるんか、市はやると言うてんのかとか、やっぱり動かし方、前にやっぱり出してきた、選択、陳情のときに、その昔のルートの人地権者33名の方々に、事業化になれば、必ず同意すると協力するという同意書も添えて出してきているにもかかわらず、今回の箕島老人憩いの説明会のとき、どうしたことか連携が悪かったんだと思います。私も担当の部長初め、脇村課長に問いただしたところ、きちんとした――市からみれば――動かし方をしている、しかしながら、過去にそういうような年月の中で起こっているの、ルートが変更されてから何にも言わんと昔判まで押したのに、勝手に変えた。変わるのやったら変わるのに判まで取っているの事前説明でもしていただきたかった、その場で初めて知ったというようなことで、やっぱりこういうような事業を進めていくときには地元の自治会初め、各種団体関係者の方々には、やっぱり協力していただかんと、こんな事業は、まして長年こんなんってきた事業は、なかったらいかんと思う。

そこでやっぱり脇村君、動かし方とか、こういう説明の仕方と、これは本当に部長とかあれには十分わかっていたらと思うんやけども。

先ほども答弁の中で、私も読むんがちょっと難しいんやけども、やっぱり線形の変更とか交差点改良の見直しというような専門用語であの場で説明しているの、これについては用地買収とか、物件保障対象を少なくし、事業経費を縮小し、早期事業着手を完成を目指すためにこういう施策をとったんだと思います。

また、当初計画の延長等変更により、国道480号線から市道6号線、望月港線へのスムーズかつ安全な合流対策が必要であるということでルートの変更をやったと思う。そうした

努力が、きちんとその場で説明し、皆さんに協力していただきながら、こんな言い方したら悪いけども、きちんと早期事業化があの河野部長のときに、あの市長のときに、今まで滞っていたものが動きだした。それはええことやというて喜んでもらえるような動かし方をしていかなんだら、先ほど耳に入ったこと嫌ごと言うたけど、できるんかいと、勝手にやっちゃうとかいろんな声があるのでね。そんなんでも私ら協力できんよという方も私のところへ連絡もきてやっていくんで、そういうようなわかりやすい丁寧な動かし方を、この事業についてはお願いしておきたいと思っておりますということで、早期実現をお願いしとくということで、私の一般質問を終わりたいと思っております。

○議長（生駒三雄君） これにて、14番西口正助君の一般質問は終わりました。

以上で、通告による一般質問は終了いたしました。

これにて、一般質問を終結いたします。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

次に、お諮りいたします。明19日も会議を開く予定でありましたが、議事の都合により明19日は休会といたしたいと思っております。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（生駒三雄君） 御異議なしと認めます。よって、明19日は休会とすることに決しました。

次会は、来る20日、午前10時から議案審議等のため、会議を開くことを申し添え、本日はこれにて散会いたします。

午後2時15分 散会

